

地域漁業学会

会 報

【発行】

地域漁業学会 事務局
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
chiikioffice@gmail.com
Tel&Fax 099-286-4280
<http://www.soc.nii.ac.jp/jrfs/>

No.83

2010年9月

目 次

第52回大会（愛媛大会）案内号

1. 第52回愛媛大会へのお誘い・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 若林良和
2. 第52回大会案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 現地事務局
 - 1) 実施概要
 - 2) シンポジウムの概要
 - 3) 地域交流ミニシンポジウムの概要
3. 事務局便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学会本部事務局
 - 1) 個別報告等の受付について
 - 2) 学会賞の推薦について
 - 3) 会員からの寄付について

1. 第52回愛媛大会へのお誘い

「文学といで湯のまち・松山、水産県・愛媛へ、おいでなもし…」

第52回愛媛大会実行委員長 若林良和（愛媛大学）

学会会員の皆さまには、すでに『会報』前号（第82号）や学会のHPで予告されておりますが、11月6、7日の両日、私どもの愛媛大学において地域漁業学会第52回愛媛大会を開催させていただきます。開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

愛媛県での開催は第19回大会（1977年）の宇和島市、第39回大会（1997年）の松山市に続き、今回で3回目となります。第19回大会は古谷会員のご尽力で、第39回大会は古谷会員と私でお世話させていただいた経緯がございます。過去2回の大会は、本学会（第19回大会は西日本漁業経済学会）の設立主旨にしたがった課題・テーマで行われました。

今回も、本学会の主旨にしたがい、地域に根ざしたかたちで開催させていただきたいと考えております。シンポジウム、ミニシンポジウムは、以下の「2. 第52回大会案内」の内容のとおりであり、県内の水産関係者や行政関係者をはじめ、広く一般の方々に開放する予定です。今大会は、会員相互の研究発表の場はもちろん、会員の皆さまと、県内の関係者との情報・意見交換の場という位置付けで準備を進めております。シンポジウムは魚類養殖のうち養殖マダイの価値をテーマとし、また、ミニシンポジウムが地域交流ミニシンポとして、地元で活躍されている水産関係者の方々に実践活動を紹介していただきます。会員の皆さまの積極的な討論を期待いたします。なお、今大会の開催に際して、愛媛県、愛媛県漁業協同組合連合会、愛媛大学より後援をいただきましたので、この場で披露申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、秋の夜長に、「坊ちゃん」や「坂の上の雲」などの文学に親しみながら、日本最古の名湯である道後温泉に浸かり、さらに、タイやブリ、カツオなどの地魚、地酒を堪能いただきたいと思っております。そして、2日間にわたる今大会を契機に、様々なレベルの交流が深まり、地域漁業の発展につながることを祈念しながら、皆さまをお迎えしたいと存じます。

再度、申し上げます。「文学といで湯のまち・松山、水産県・愛媛へ、おいでなもし…」

2. 第52回愛媛大会案内

(1) 実施概要

日時：2010年11月5日（金）～7日（日）

場所：愛媛大学城北キャンパス

愛媛県松山市文京町3

（愛媛大学のメインキャンパス。松山市の中心部近くに立地。）

日程：あくまで、現時点での予定。

5日（金） 14:00～ 各種委員会

18:00～ 理事会

6日（土） 9:30～ 個別報告

13:00～ 総会

14:20～ 地域交流ミニシンポジウム

18:00～ 懇親会

7日（日） 9:30～ シンポジウム

*宿泊については、道後温泉をはじめ数多くの宿泊施設がありますが、この時期、行楽シーズンに当たるとともに、テレビの「坂の上の雲」ブームのため、早めの宿泊確保をお勧めいたします。

参加費・懇親会費

参加費：2000円（要旨集代込み。個人会員、学生会員ともに同額）

なお、非会員で要旨集希望者は2000円。要旨集不要者は無料。

懇親会費：一般6000円、学生4000円

<大会の問い合わせ先>

地域漁業学会第52回愛媛大会実行委員会

愛媛大学農学部（南予水産研究センター松山分室）

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7

委員長：若林良和（089-946-9921、ywakaba@agr.ehime-u.ac.jp）

事務局長：竹ノ内徳人（089-946-9835、naruhito@agr.ehime-u.ac.jp）

(2) シンポジウムの概要

【テーマ】

養殖マダイの価値再生

ー商品として、消費から生産～加工・流通を見直すー

【主旨】

今回のシンポでは、「マダイ養殖」ではなく「養殖マダイ」という観点から検討する。つまり、マダイ養殖の置かれた現状を踏まえると、その突破口の一助となるのは、「養殖マダイ」の食材としての良さ、つまり、商品としての魅力を学際的に再検討することにあると考えられる。商品の良さ、魅力を構築していくことは、「養殖マダイ」の価値再生、つまり、「養殖マダイ」の価値の向上・創造であるといえる。

養殖水産物の市場価値が低く見られる傾向、天然崇拜などのイメージがあるなかで、今回のシンポの基本的な課題は、「養殖マダイ」の価値を見直すことにある。「養殖マダイ」の商

品価値をどう高めていくか、さらには、新たな商品価値が創造できないかといった点を探求することにある。川下サイドで価格などが規定される現状において、消費者、さらには、顧客にとって「養殖マダイ」を食べるに値する価値とは何か、「養殖マダイ」を食べてもらうための魅力づくりに必要なものは何かという検討は不可欠であると思われる。

したがって、「養殖マダイ」に関する商品学的な検討を試行し、モノづくりとしての「マダイ養殖」という点に立ち返り、「養殖マダイ」の商品化を図るための価値向上・創造を検討すること、「養殖マダイ」の魅力づくりに資することが本シンポの主題である。その際のアプローチとして、「養殖マダイ」そのものが本来的に持っている特質（＝物性）、そして、「養殖マダイ」としてあるべき資質（＝嗜好性）を念頭に置いて、川下の消費から川上の生産に遡及することにしたい。

【構成】

*報告タイトルは仮題。

司会：佐野雅昭（鹿児島大学）、鳥居亨司（鹿児島大学）

第1報告：若林良和（愛媛大学）

主旨説明、多様な価値内容に関する検討

第2報告：久賀みず保（鹿児島大学）

消費段階における価値の検討

第3報告：柳珉錫（大韓民国農林水産食品省）

韓国における日本からの輸出商材の価値に関する検討

第4報告：竹ノ内徳人（愛媛大学）

養殖加工・流通業者の価値に関する検討

第5報告：金尾聡志（愛媛県庁）

養殖生産者の価値に関する検討

コメンテーター：林紀代美（金沢大学）、前潟光弘（近畿大学）

亀田和彦（長崎大学）

（3）地域交流ミニシンポジウムの概要

【テーマ】

水産振興に関する地域の対応 ―愛媛県を事例として―

【主旨】

水産県愛媛県においても、水産業に関わる諸問題は全国と同様に山積した現状にある。そうしたなかで、県内の様々な領域・分野において、水産振興に向けた積極的な取り組みが地域を単位にして展開されている。その実践活動を紹介しながら、今後の水産振興の方途を探る。

今回のミニシンポジウムは地域交流ミニシンポとし、県内で精力的に水産振興に取り組んでおられる関係者5人をパネリストに迎え、学会会員との意見交換の場とする。そして、各パネリストには、地域での実践が水産物の「価値」の見直しにどのようにつながっているのか？あるいは、どのようにつながる可能性があるのか？といった点にも言及してもらい、翌日のシンポジウムの討論の基盤としたい。

【構成】

* 報告タイトルは仮題。

司会：磯部作（日本福祉大学）、前原務（愛媛県庁）

主旨説明：若林良和（愛媛大学）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 第1報告：光田和生（愛媛県庁） | 愛媛県の水産振興に関連する施策 |
| 第2報告：徳弘多一郎（徳弘水産） | こだわりマダイ養殖に関する生産技術 |
| 第3報告：近藤芳仁（秀長水産） | 産地流通業者による水産振興への取り組み |
| 第4報告：松本洋子（上灘漁協） | 漁協女性部による加工品づくり |
| 第5報告：兵頭重徳（愛南町役場） | 町おこしに通ずる「ぎょしょく」への取り組み |

（文責：若林）

3. 事務局便り

1) 個別報告等の受付について

個別報告を希望される会員は、タイトル、報告者氏名（複数の場合は全員）、所属（同左）、要旨本文をA4用紙1枚（縦置き横書き）に収めたWindows版一太郎またはwordファイルを、メールもしくは郵送で下記へ送付してください。また原稿ファイルとは別に、報告者の読み仮名と、プロジェクター等機材使用の有無をメール本文や別紙でお知らせください。なお、メールによるファイル送付の場合は事務上の行き違いや送受信時の事故を考慮して、印刷原稿1部を下記へFaxまたは郵送してください。締切は10月18日（月）必着です。お送りいただいた原稿は報告要旨集に収録して配布・販売するほか、地域漁業学会のHP等に掲載・公表される事があります。ご了承ください。

なお、シンポジウムやミニシンポジウムの報告者の方は、枚数制限はありませんが同様の内容を10月18日までに申込先まで送付してください。また、コーディネーターより指示がある場合はそちらにしたがってください。

<申込先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部 地域漁業学会個別報告担当
Fax. 099-286-4280 電子メール：sakuma-eco@nifty.com

2) 学会賞の推薦について

「学会賞」、「学会奨励賞（中楯賞）」および「学会功労賞（柿本賞）」の推薦がございましたら、被推薦者の氏名、同勤務先、推薦理由、その他必要事項を文書にて、10月25日（月）必着で下記宛にお送りください。

<送付先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部 地域漁業学会

3) 会員からの寄付について

サンフード株式会社の近藤信義会員より、地域漁業学会宛に10万円の寄付をいただきましたのでお知らせいたします。

地 域 漁 業 学 会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jrfs/>

本部事務局 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
Tel&Fax 099-286-4280
担当 佐久間美明 chiikioffice@gmail.com

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：鹿児島銀行 きしゃば支店

普通 834624